

令和4年度 全国学力・学習状況調査結果の安来市の概要について

安来市教育委員会 学校教育課

令和4年4月19日に小学校6年生及び中学校3年生を対象に実施された、全国学力・学習状況調査結果について、本市の概要をお知らせします。

1 全国の状況

○本年度の調査は、小学校第6学年で国語、算数、理科、中学校第3学年で国語、数学、理科を全児童生徒を対象として実施されました。
 ○令和元年度より、新学習指導要領の趣旨を踏まえ、従来の「主として知識に関する問題」(A)と「主として活用に関する問題」(B)を見直し、「知識」と「活用」を一体的に問う出題形式となりました。
 ○平成29年度より、全体の平均正答率は整数値にて公表されています。よって、各教科における全体の結果については全国との差に誤差(四捨五入の関係による)が生じることから、表示はしていません。

2 安来市の状況

(1)教科の概要

〈小学校6年生〉

国語:全体では、令和3年度よりも全国平均との差が小さくなりました。
 ・「書くこと」は、令和3年度よりも全国平均との差が小さくなりました。
 ・「読むこと」は、令和3年度よりも全国平均との差が大きくなりました。
 ・言葉の特徴や使い方に関する事項は比較的できています。一方、文章全体の構成や書き表し方などに着目して文や文章を整えることや人物像や物語の全体像を具体的に想像したり、表現の効果を考えたりすることに課題があります。

算数:全体として、全国平均より大きく下回りました。
 ・「図形」は、全国平均との差が令和3年度よりも改善されましたが、他の領域については、全国平均との差が大きくなりました。
 ・被乗数に空位のある整数の乗法の計算はよくできています。一方、示された日常の事象における場面において、目的に合った数の処理の仕方を考察したり、数量が変わっても割合は変わらないことを理解したりすることに課題がありました。

理科:全ての領域で全国平均を4ポイント以上、下回りました。
 ・問題を解決するために必要な観察の視点を基に、問題を解決するまでの道筋を構想することはできています。一方、実験で得た結果を分析して、解釈し、具体的な数値や分析した内容に基づいて、結論の根拠を記述することや、自分や他者の気づきを基に分析して解釈し、適切な問題を見いだし記述することに課題があります。

【国語】

国語		平均正答率(%)			
		安来市	県	全国(公立)	全国との差
全体		62	64	65.6	
領域	話すこと・聞くこと	63.4	63.6	66.2	-2.8 △
	書くこと	42.7	47.3	48.5	-5.8 ▲
	読むこと	59.5	62.4	66.6	-7.1 ▲
	(1)言葉の特徴や使い方に関する事項	67.9	68.6	69.0	-1.1 △

※安来市の平均正答率を全国平均に対して、差が+3ポイント以上を◎
 全国平均を上回り+3ポイント未満を○
 全国平均を下回り-3ポイントまでを△
 -3ポイント以下を▲で示しています。

【算数】

算数		平均正答率(%)			
		安来市	県	全国(公立)	全国との差
全体		59	61	63.2	
領域	数と計算	65.3	67.5	69.8	-4.5 ▲
	図形	58.2	60.7	64.0	-5.8 ▲
	測定				
	変化と関係	48.2	49.0	51.3	-3.1 ▲
	データの活用	64.2	66.8	68.7	-4.5 ▲

【理科】

理科		平均正答率(%)			
		安来市	県	全国(公立)	全国との差
全体		59	62	63.3	
領域	エネルギー	47.2	50.2	51.6	-4.4 ▲
	粒子	55.9	58.7	60.4	-4.5 ▲
	生命	71.0	73.6	75.0	-4.0 ▲
	地球	60.6	62.2	64.6	-4.0 ▲

〈中学校3年生〉

国語:全体での正答率が全国平均を上回りました。

・「話すこと・聞くこと」、「読むこと」は、全国平均を上回りました。

・「書くこと」は、全国平均を少し下回りました。

・聞き手の興味・関心などを考慮して、表現を工夫することはよくできています。一方、引用の仕方や出典の示し方について理解し、自分の考えが伝わる文章になるように、根拠を明確にするために必要な情報を資料から引用して書くことや自分の考えが分かりやすく伝わるように表現を工夫して話すことに課題があります。

数学:全体の正答率が全国平均を少し下回りました。

・「関数」と「図形」は、全国平均を下回りました。

・「数と式」と「データの活用」は全国平均と比較し、昨年度から「数と式」が8.7ポイント、「データの活用」が3.4ポイント改善しました。

・多数の観察や多数回の思考によって得られる確率の意味の理解についてはよくできています。一方、一次関数の変化の割合の意味を理解したり、日常的な事象を数学的に解釈し、問題解決の方法を数学的に説明したりすることに課題があります。

理科:全体の正答率が全国平均を少し下回りました。

・「エネルギー」領域は全国平均を下回ったが、その他の領域は全国平均と同じか上回りました。

・モデルを使った実験において、変える条件と変えない条件を制御した実験を計画することはできていました。一方、物体に働く重力とつり合う力を矢印で表し、その力を説明することや、物質の状態変化に関する知識及び技能を活用することに課題があります。

【国語】

国語		平均正答率(%)			
		安来市	県	全国(公立)	全国との差
全 体		71	69	69.0	
領域	話すこと・聞くこと	73.7	71.5	72.2	1.5 ○
	書くこと	45.9	46.6	46.5	-0.6 △
	読むこと	69.5	66.2	67.9	1.6 ○
	(1)言葉の特徴や使い方に関する事項	73.7	71.5	72.2	1.5 ○

※安来市の平均正答率を全国平均に対して、差が+3ポイント以上を◎
 全国平均を上回り+3ポイント未満を○
 全国平均を下回り-3ポイントまでを△
 -3ポイント以下を▲で示しています。

【数学】

数学		平均正答率(%)			
		安来市	県	全国(公立)	全国との差
全 体		51	49	51.4	
領域	数と式	58.0	53.9	57.4	0.6 ○
	図形	42.2	41.1	43.6	-1.4 △
	関数	40.7	38.9	43.6	-2.9 △
	データの活用	57.9	56.8	57.1	0.8 ○

理科		平均正答率(%)			
		安来市	県	全国(公立)	全国との差
全 体		49	48	49.3	
領域	エネルギー	40.0	40.6	41.9	-1.9 △
	粒子	51.7	49.9	50.9	0.8 ○
	生命	58.9	57.3	57.9	1.0 ○
	地球	44.3	43.6	44.3	0.0 ○

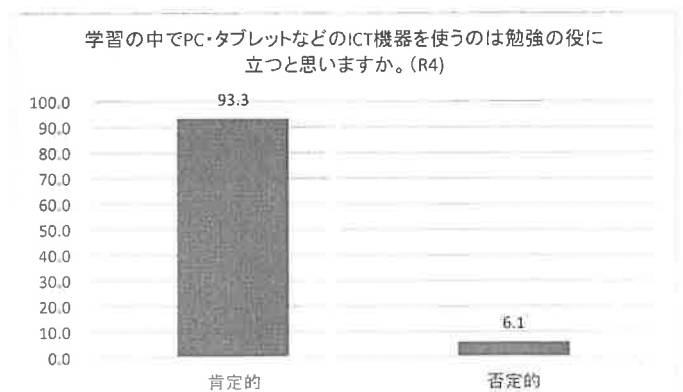
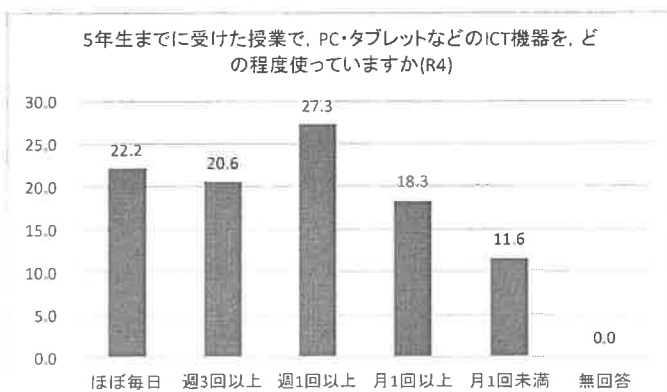
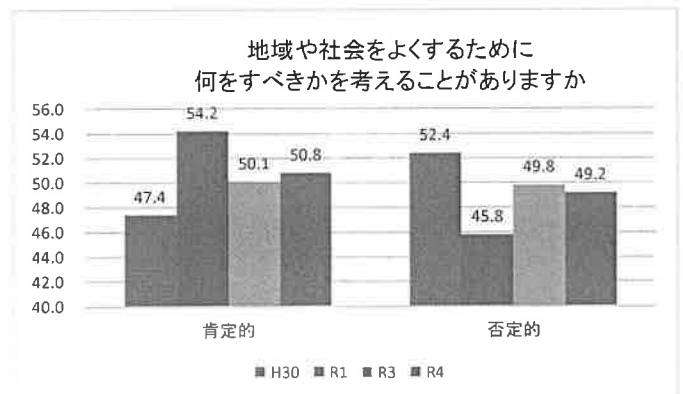
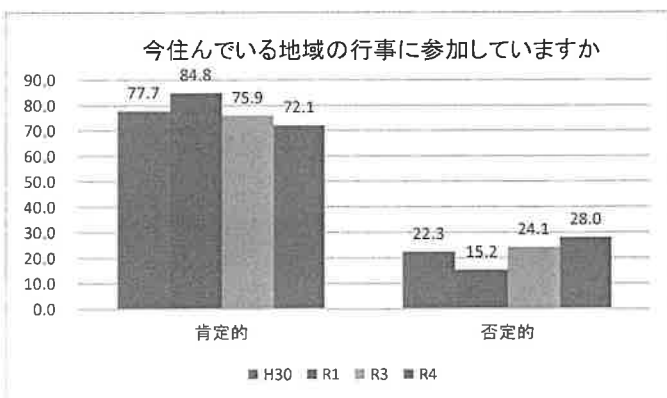
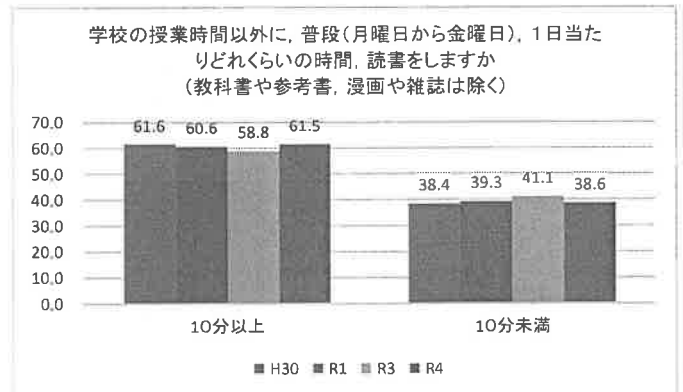
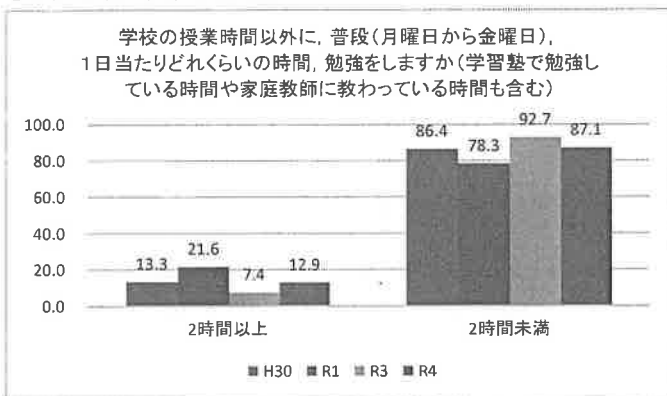
(2) 学習や生活の様子(児童生徒質問紙調査より)

〈小学校6年生〉

【全国と安来市との比較で特徴的な項目】(全国平均との差)

肯定的な評価項目(全国との比較において、比較的大きな差異がみられるもの)	
小 学 校	<ul style="list-style-type: none"> ・今住んでいる地域の行事に参加していますか。(＋19.4) ・道徳の授業では、自分の考えを深めたり、学級やグループで話し合ったりする活動に取り組んでいますか。(＋5.2) ・新聞を読んでいますか。(＋5.2) ・難しいことでも、失敗を恐れなくて挑戦していますか。(＋5.8) ・地域の大人に、授業や放課後などで勉強やスポーツを教えてもらったり、一緒に遊んでもらったりすることがありますか。(＋9.2)
	否定的な評価項目(全国との比較において、比較的大きな差異がみられるもの)
	<ul style="list-style-type: none"> ・国語の授業の内容はよく分かりますか。(－2) ・算数の授業の内容はよく分かりますか。(－4) ・将来、理科や科学技術に関係する職業に就きたいと思いますか。(－2.8) ・理科の授業で、観察や実験の結果から、どのようなことが分かったのか考えていますか。(－4.8) ・理科の授業では、自分の予想をもとに観察や実験の計画を立てていますか。(－4.7) ・読書は好きですか。(－6.9)

【地域・家庭に関わる項目】(過去4年の経年比較・ICT機器活用についてはR4年度より)



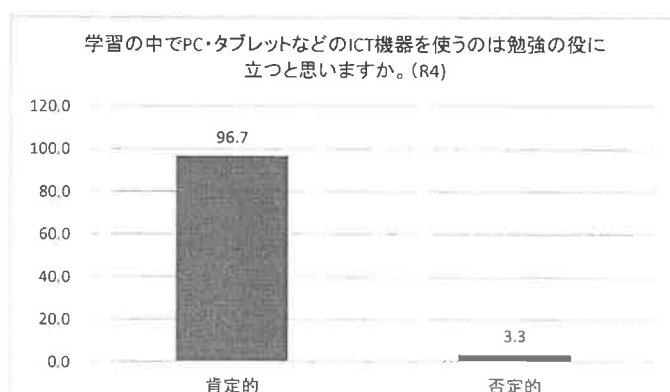
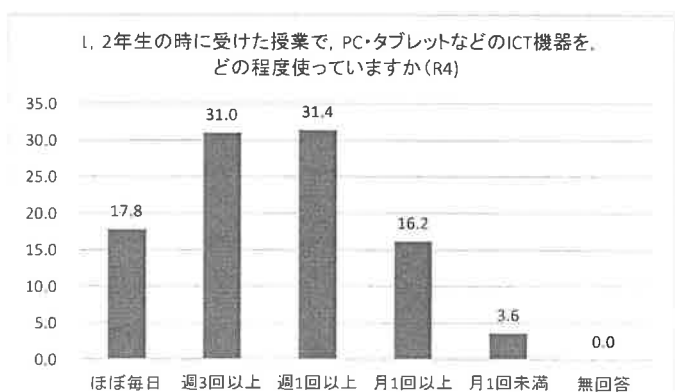
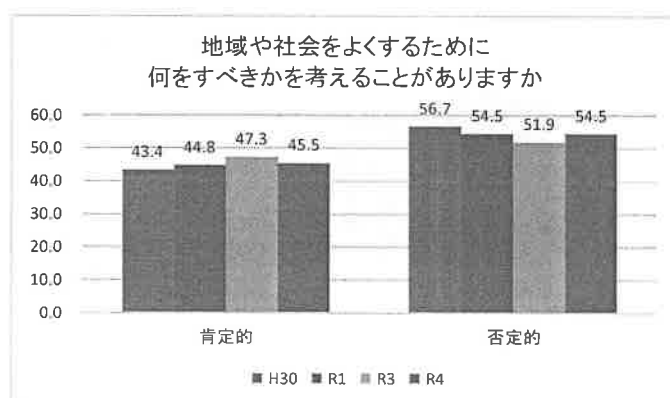
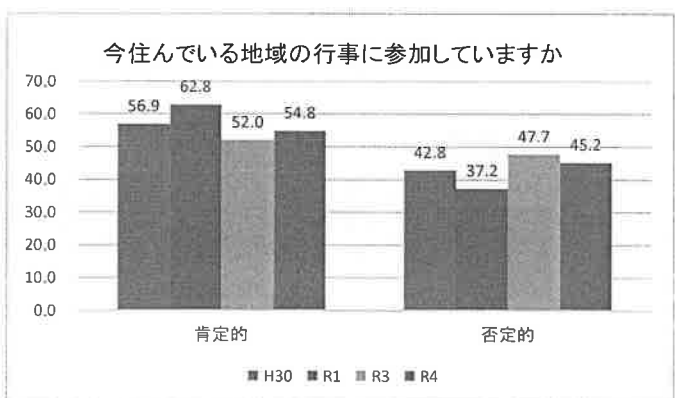
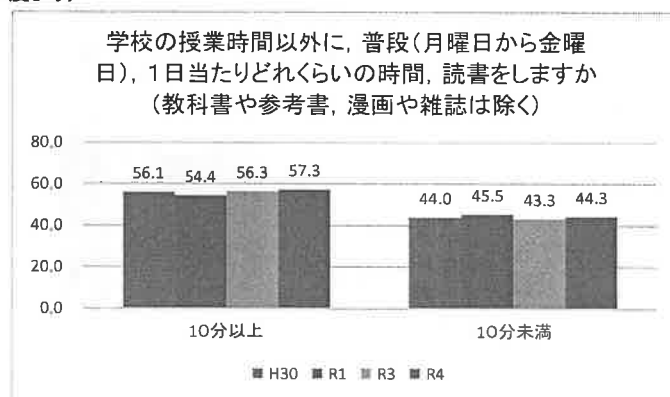
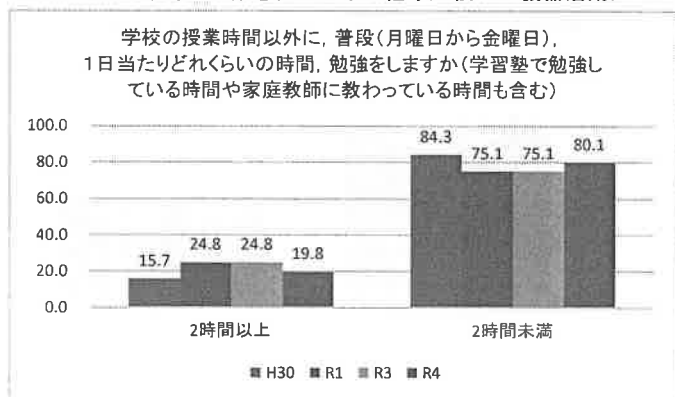
(2) 学習や生活の様子(児童生徒質問紙調査より)

〈中学校3年生〉

【全国と安来市との比較で特徴的な評価項目】(全国平均との差)

肯定的な評価項目(全国との比較において、比較的大きな差異がみられるもの)	
中 学 校	<ul style="list-style-type: none"> 総合的な学習の時間では、自分で課題を立てて情報を集め整理して、調べたことを発表するなどの学習活動に取り組んでいると思いますか。(+14.7) 今住んでいる地域の行事に参加していますか。(+14.8) 難しいことでも、失敗を恐れなくて挑戦していますか。(+10.8) 数学の勉強は好きですか。(+10.9) 数学の授業で学習したことは、将来、社会に出たとき役に立つと思いますか。(+10.3) 自分と違う意見について考えるのは楽しいと思いますか。(+6.2)
	否定的な評価項目(全国との比較において、比較的大きな差異がみられるもの)
	<ul style="list-style-type: none"> 国語の授業の内容はよく分かりますか。(-2.9) 数学の授業で問題を解くとき、もっと簡単に解く方法がないか考えますか。(-4.2) 理科の授業の内容はよく分かりますか(-4.3) 理科の授業で、学習したことを普段の生活の中で活用できないか考えてみますか。(-4.2) 将来、理科や科学技術に関係する職業に就きたいと思いますか。(-2.3)

【地域・家庭に関わる項目】(過去4年の経年比較・ICT機器活用についてはR4年度より)



3 結果を受けて

安来市の各小・中学校では、児童・生徒の学力向上を目指し、授業改善はもとより、授業時間以外でも様々な活動に取り組んでいます。安来市教育委員会としましては、全国学力・学習状況調査を分析し、さらに学校訪問や各校の授業研究会などの取組の成果や課題を考察した上で、今後の各校の学力向上に向けた具体的な改善の取組を支援していきます。

また、学習習慣や生活習慣の確立が学力の定着に極めて重要であることに鑑み、今後さらに学校と家庭とが連携する取組や保育所園・認定こども園・幼稚園・小学校・中学校・高等学校が連携する取組を支援していきます。

〈学校で〉

○どの教科においても、すべての児童・生徒に基礎的・基本的な知識・技能を確実に習得させることが大切です。

個に応じたきめ細かな指導を充実させたり、補充的な学習を取り入れたりする必要があります。また、思考力・判断力・表現力等を育成し、理解していること・できること(知識・技能)を活用していけるようにします。学校では、各教科の学びをつなぐ探究的・発展的な学習を取り入れたり、児童・生徒が互いに学び合ったりできるような授業実践を目指して、さらなる工夫・改善が望まれます。このような学びにより、自らの学びを人生や社会に生かそうとする学びに向かう力の育成が期待されます。

○児童・生徒が主体的に、見通しをもって学習に取り組むために、授業のはじめに目標(めあて・ねらい)を示すこと、また、自分が学んだこと、できるようになったこと、もっと学びたいことなどを自覚するための振り返りの活動を授業の最後行うことが必要です。

○学力調査において、課題の見られた設問について各校で分析し、該当の単元あるいは領域等について授業改善に取り組んでください。学力調査の結果分析を改善策の策定に活かし、実践し、評価するPDCAサイクルを構築されることが望まれます。

その際、継続し改善を図ることが大切です。

○生活習慣と学力における課題を明確にし、継続して指導に当たることによって成果が上がると考えられます。

○保護者と連携しながら、家庭での学習習慣や生活習慣の確立に努める必要があります。

○地域の行事に参加する児童・生徒が多いことは本市の特色です。児童・生徒質問紙の「地域や社会をよくするために何をすべきかを考えることがありますか」の項目で、中学生が全国平均よりも肯定的な回答をしている割合が高く、地域と連携した取組や地域の行事などへの主体的な参加が、地域貢献の意欲を高める結果となっています。今後も、児童・生徒が自ら地域と関わり、地域の課題を発見し、解決していく探究型の学習を継続していくことが期待されます。

○児童生徒一人一人に確実に学習の基盤となる資質・能力を育成するために、今後更に個別最適な学び及び協働的な学びの一体的な充実が必要です。ICT機器活用の特性と強みを生かした教育活動と、今まで積み重ねた図書館活用教育の実践のベストミックスによる学習が展開されることが望まれます。

○ICT機器の活用について、勉強に役立つと思っている生徒は全国平均よりも肯定的な回答をしている割合が高くなっています。一方で、授業中自分で調べる場面、意見を交換する場面、発表する場面での活用の割合が低く、意図的に使用することが必要です。

〈家庭、地域で〉

◎家庭へのお願い

児童・生徒の学力の定着を図るために、以下のような取組をお願いします。

○ 基本的な生活習慣を身につけさせましょう。

・あいさつや食事、睡眠、起床時間など規則正しいリズムを身につけると、児童・生徒の本来持っている力が高まります。

○ 家庭で主体的に学習する習慣を身につけさせましょう。

(各学校で配布されている家庭学習の手引きが参考になります。)

・日々、家庭で学習すること(宿題や予習などの学習を大切にすること)は、基礎学力の定着や学力向上には不可欠です。学校では、授業と家庭学習をつなげた取組がなされています。

・今年の調査では、「家で自分で計画を立てて勉強をしていますか」の質問項目において、小・中学生ともに肯定的な回答が全国平均を上回っています。

○ 家庭でのコミュニケーションを大切にしましょう。

・学校での出来事や、テレビのニュース番組を見たり、新聞を読んだりして気づいたことなどを話しましょう。

(家庭で学校のことを家族と話し、社会に対する興味・関心の高い児童・生徒ほど、教科の平均正答率が高い傾向が見られます。)

○ 日常生活の中で社会のルールやマナーを身につけさせましょう。

・お手伝いを通して自分の役割の大切さを感じ、責任感をもつことができます。

・思いやりの心や社会性などを育むことができます。

○ 読書に親しむ経験を豊かにしましょう。

・本に親しむ経験は、学習の基盤につながります。

・家で読み聞かせをしたり、一緒に読書をしたりするなど、家庭での読書の機会をさらに増やしましょう。

○ 地域の行事に積極的に参加したり、郷土の自然や文化にふれる体験をしたりしましょう。

・ふるさとへの理解を深め、ふるさとを愛する心が育まれます。

・地域の人との温かなふれ合いが、規範意識、コミュニケーション力、自尊感情を高めます。

◎地域の皆様へのお願い

「地域の行事に参加している」児童生徒が多いことは、本市の大きな強みと言えます。これは、本市で進めているふるさと教育に対して地域の皆様にご協力をいただいている賜物であると考えています。

ふるさと教育については、より充実したものになるように今後も取り組んでいきますので、引き続きご支援よろしくをお願いします。